令和８年度
社会福祉法人　のぞみ会
事業計画書

社会福祉法人　のぞみ会

介護老人福祉施設　のぞみの杜
居宅介護支援事業所　のぞみの杜
短期入所生活介護事業所　のぞみの杜
個室ユニット型短期入所生活介護事業所　のぞみの杜
通所介護事業所　のぞみの杜ふれ愛
元気の湧　のぞみの杜
グループホーム　のぞみの杜
生活支援ハウス　のぞみの杜
介護予防事業
もりのほいくえん　のぞみの杜

西彼杵郡長与町吉無田郷 1578
℡095-887-3333　Fax095-887-3599
URL:http://www.nozominomori.or.jp
E-mail:nozomi@nozominomori.or.jp

～経営理念～

社会福祉法人のぞみ会は、地域における高齢者福祉サービスの拠点として、人権尊重とノーマライゼーションの理念に基づき、高齢者が自立し、安心して地域社会の中で心豊かに生活できるよう支援し、また、このことを通じ、地域社会に貢献する。

基本方針

1. **人間的尊厳・人格尊重を最優先としたサービスの提供に努めます**
2. **個々のニーズに対応した良質・高度なサービスの提供に努めます**
3. **地域住民に信頼され、愛される「安心の拠り所」を目指します**
4. **志を高く、常に向上心を持ち、感性豊かなサービスの提供に努めます**

社会福祉法人のぞみ会の果たすべき使命と役割

◇ 身近な社会資源として地域のニーズに応える

(レスキュー事業を始め、非常時にも備え得る社会資源としての安心の拠り所)

(福祉避難所、見守り事業、各種イベント等を通して地域づくりへの参画)

◇ 多様な働き方のできる地域の安定的な雇用の場としての責任

(安定的な経営で、働きやすい職場づくりを実践、多様化する雇用への貢献)

(介護人材の育成強化、ICT や介護ロボット等の活用、生産性向上)

◇ 介護のプロフェッショナル集団として地域に果たす役割

(現場から介護・福祉の魅力を発信する役割を担い、高齢社会に貢献する)

(地域資源としての役割、施設に所属する専門職による地域貢献を図る)

◇ 実地研修施設としての役割と使命

(尊厳の保障、自立支援を念頭に生産性向上を図り、介護の価値を高める)

(エビデンスに基づいたケアの実践、科学的な手法に基づく分析・蓄積・検証)

◇ 地域包括ケアにおける施設の果たす役割

(地域共生社会づくりに向けた公益的取り組み強化、まちづくりへの貢献)

(地域の介護者を支える仕組みづくり、社会福祉法人としての役割を果たす)

令和８年度に向けて

常に時代の変化に合わせて進化し、選ばれるのぞみ会であり続けるために、令和８年度は、大きく３つのことを挑戦する年にしていきます。

一つ目は、のぞみ会はじめてとなる外国人労働者の採用を決定し、雇用をしていきます。全国各地で介護人材不足が叫ばれている中、のぞみ会は未来を見据え、新たな採用ルートを確保し、確実な教育体制を整え、文化や価値観を理解しながら共に切磋琢磨する仲間として温かく迎え入れ、成長していきます。

二つ目は、生成 AI の活用が出来る体制を構築していきます。急速に普及する生成 AI は昨今、世界的にも大きな革命をもたらしています。私たちは、テクノロジーを賢く活用し、各々の生産性を高め、人にしかできないケアにしっかりと時間を確保できるよう運用を開始していきます。

三つめは、これまで学びを続けてきた「科学的介護」とそれ以前よりのぞみ会が大切に学びを続けてきた「個別ケア」、双方のいいところをとった良いとこ取りの「オリジナルのケア」を作り上げていきます。「科学的介護」も「個別ケア」もいずれも個別ケアの延長線上にあり、のぞみ会が大切にしている利用者様、入居者様の尊厳と自立を支える大切な考え方でもあります。のぞみ会の介護の質をオリジナルのケアによってさらに追及していくことに挑戦していきます。

今、のぞみ会は大きな変化の中にいます。職員一人ひとりが方針を理解し、専門性を最大限発揮することがチーム力となりのぞみ会の進化を加速させていきます。

働く職員が仕事を楽しみや、やりがいとして捉えることが出来るよう、一つ一つを丁寧に、かつスピード感を持ち事業を進めて参ります。

挑戦多き、令和８年度一人ひとりの力を発揮し、挑戦に満ちた輝く一年となりますようのぞみ会一丸となり頑張っていきましょう。

令和８年３月

のぞみ会のぞみの杜　施設長　池原　美恵

＜令和８年度　組織運営＞

最高議決会議である理事会をはじめとする各種会議の開催により、組織運営をより円滑に行う。

（各種会議等の開催）

	会議名	開催日	主たる参加職種	備考
1	理事会	6月・9月・12月・3月・随時	理事・監事	
2	評議員会	6月・随時	評議員	
3	監事監査会	6月	監事	
4	経営会議	毎月15日	管理者	
5	事業所会議	毎月1回（事業所指定日）	各事業所職員	
6	ユニット会議	毎月1回（ユニット指定日）	各ユニット職員	
7	ユニットリーダー会議	毎月1回(事業所連携会議開催日)	ユニットリーダー	
8	全体職員会議	3月末日	全職員	

＜各種委員会の設置＞

社会福祉法人のぞみ会活動の推進並びに組織活性化を目的とした専門委員会の設置

（各種委員会の開催）

	会議名	開催日	主たる参加職種	備考
1	身体拘束廃止・虐待防止委員会	毎月	管理者及び委員	
2	入居判定委員会（特養・GH）	随時	施設長・第三者委員・他	
3	労働安全衛生委員会	毎月・随時	施設長・医師・管理者・他	
4	安全管理委員会	毎月・随時	管理者及び委員	
5	BCP対策委員会(災害班･衛生班)	毎月・随時	管理者及び委員	
6	科学的介護推進委員会	毎月・随時	管理者及び委員	
7	生産性向上推進委員会	毎月・随時	管理者及び委員	
8	褥瘡対策委員会	毎月・随時	管理者及び委員	

＜各種委員会等＞

1　身体拘束廃止・虐待防止委員会

目的「入居者及び利用者の尊厳を保証し、その尊厳に向き合う職員を守る」

目的「虐待をおこさせない組織運営強化」

・身体拘束廃止・虐待防止にかかる研修立案
・日常における不適切ケアの早期発見
・身体拘束廃止・虐待防止によるコンピテンシーの周知と広報活動

2　入居判定委員会

目的「特別養護老人ホーム、グループホームの適切な入居判定を行い、スムーズな入居を図る」

・入居決定にかかる判定会議のための事前調査、事務処理
・入居判定会議等の開催、議事録作成、入居待機者へのアプローチ

3　労働安全衛生委員会

目的「職場の安全と衛生、職員の健康に配慮し、快適な職場環境を推進する」

・安全衛生管理体制の強化
・労働者の健康管理、衛生管理、健康保持及び増進を図る

4　安全管理委員会

目的「予防の観点からの予知予測を徹底し、事故発生件数の減少を図る」

「事故発生にあたっては徹底した原因分析と再発防止策を図り、事故ゼロへと繋げる」

・予知予測による事故の回避（事故回避の気づき、感性、視点を磨く各取り組み）
・事業所毎の是正件数の減少への取組み
・事故リスクに対する家族や居宅への発信等の取り組み
・安全管理にかかる研修の企画・立案
・ヒヤリハット、是正予防処置データからのリスクマネジメント強化策
・事故原因の分析、再発防止策
・各事業所独自のヒヤリ（気づき）の取組の提案と実現
・全事業所にかかるリスクへの課題や発信

5　ＢＣＰ対策委員会【災害班・衛生班】

目的「災害や感染症発生時における早期事業の再開ための、BCP の運用と訓練の実施」

・要配慮者（施設ご利用者等）に対する適切且つ安全な対策のための体制作り
・職員に対する BCP 運用の推進
・地域協定による災害・感染症発生時の救援・避難体制の構築
・災害・感染症の発生を踏まえた研修の実施と訓練（シュミレーション）

6　科学的介護推進委員会

目的「社会福祉法人のぞみ会の本来の存在意義を社会に問うため、高齢者生理学等のエビデンスに基づいた科学的介護の学びと実践等ＰＤＣＡサイクルを確実に回し、利用者・入居者の身体的自立・精

神的自立・社会的自立を実現することで、利用者・入居者の尊厳を護ることを目的とする。」

7　生産性向上推進委員会

目的「介護現場における生産性の向上に資する取組の促進を図るため、その課題を抽出及び分析し、ご利用者の安全と介護サービスの質の確保さらに職員の負担軽減に資する方策を検討」

・ご利用者と職員の生産性向上のための具体的な取組を検討・実施する

・ICT・介護ロボット等のテクノロジーの推進と活用

8　褥瘡対策委員会

目的「褥瘡予防と早期発見を多職種で行う」

・検討会議を実施。

・褥瘡発生時は迅速で適切な対応を行う

・褥瘡を予防するための情報共有

＜各部会の設置＞

（各種部会の開催）

	会議名	開催	主たる参加職種	備考
1	安全管理部会	毎月１回	管理者・各事業所責任者	
2	衛生管理部会	毎月１回	管理者・各事業所責任者	
3	苦情対策部会	毎月１回	管理者・各事業所責任者	
4	品質向上・研修部会	毎月１回	管理者・各事業所責任者	

1　安全管理部会

目的「予防の観点からの予知予測を徹底し、事故発生件数の減少を図る事の周知」

事故発生にあたっては徹底した原因分析（なぜなぜ分析）と再発防止策の検討を行う

このことを従業員に適切に行き渡る体制を整備する

2　衛生管理部会

目的「衛生管理を徹底し、感染症や食中毒の予防やまん延防止策を図る」

「衛生にかかる意識を高め、感染を防止する」

「衛生管理研修」の企画、実施

3　苦情対策部会

目的　「苦情に真摯に向き合い、より良いサービスの提供を図る」

「顧客満足を顧客感動に変え得るサービスを追求し、苦情ゼロへと繋げる」

「苦情になり得るヒヤリハットから予知予測される苦情のマネジメント強化を図る」

4　品質向上・研修部会

目的　「専門性として更なるスキルアップとなる研修を企画し、高品質のサービスへと繋げる」

・事業所内研修の活性と充実（段階別研修など習熟度にあわせた取り組み）
・外部講師による研修会開催（企画・立案から実施まで）
・外部研修参加のための情報発信、推進強化
・全体研修の企画・立案から実施
・のぞみの杜人間力アップ企画・推進
・研修にかかるニーズ調査、職員の学びたいに応える研修会の開催

＜イベント・プロジェクト＞

目　　的

職員自ら企画、立案するなど積極的に多方面との繋がりを大切にし、のぞみの杜らしいイベントを催し、介護と福祉の魅力を発信する。このことから「のぞみの杜のチーム力強化」を目指す。

活動内容

・のぞみの杜秋祭り
・地域交流
・スタッフ交流　　等

＜リクルート・プロジェクト＞

目　　的

・採用課題、ターゲットを明確にした採用計画を立て、人材の採用獲得を目指す。
・介護・保育の仕事の魅力・やりがいを発信し、先駆的なイメージ戦略・リクルート戦略を行う。

活動内容

・リクルートを目的としたブランディング
・SNS における発信等
・ホームページ企画・管理
・外国人労働者へのサポート支援

＜人事管理制度＞

社会福祉法人のぞみ会人事・組織活性化を目的とした人事考課制度の実施

1　人事考課日程（自己評価）

4月（前年度後期評価：10月～3月）

10月（本年度前期評価：　4月～9月）

2　フィードバック面接（一次評価及び二次評価）

5月（前年度後期評価：10月～3月）

11月（本年度前期評価：　4月～9月）

3　評定（S・A・B・C・D 評価）

6月賞与による評価（前年度後期評価：10月～3月）

12月賞与による評価（本年度前期評価：　4月～9月）

＜中・長期計画＞

地域包括ケアシステムの構築に向けたシステムづくり、総合事業移行への取り組み強化

1．創立時の理念である地域に根ざした社会福祉法人、高齢者福祉サービスの拠点となる

2．人口減少社会における「人づくり・地域づくり」に貢献する

3．地域の安心の「拠り所」を構築する

4．働き方改革による働きやすさの追求

介護老人福祉施設　のぞみの杜

これまで学んできた「科学的介護」と「個別ケア」のいいとこ取りの「のぞみの杜オリジナルケア」を創っていく、はじまりの１年とする。データ分析を行い、根拠を持った常に質の高いケアを目指す。日々の取り組みや様子をご家族様へ丁寧に発信し、来ていただける機会を増やすことで、ご家族と共に支援が出来る温かい事業所となる。

【収益目標】

１．　稼働率９９％以上

【科学的介護目標】

１．ドーパミン的幸福

・科学的介護に基づく集中ケアを実施し、15名の改善を実現する。

・家族会を開催し、ご家族の参加２０名を目指す。

２．　オキシトシン的幸福

・抗精神薬服用５名減

・抗認知症薬服用５名減

３．　セロトニン的幸福

・自立歩行３０名達成

・排泄自立（トイレでの排泄・パット汚染無し・日中のみ）改善１０名

・常食化　７名増

・定時下剤服用５名減

・平均水分摂取１５００㎖以上

【個別ケア目標】

１．キャプション評価を用いて、PEAPに基づいた環境の見直しを図る。

（上半期の研修４回実施、下半期取り組み内容について事例発表を行う。）

２．ご本人の生活に必要な物品や好みを家族と共有し、面会の機会を増やしながら、ご家族とのコミュニケーションを深めていく。（家族参加に繋げる）

個室ユニット型短期入所生活介護事業所　のぞみの杜

在宅生活を支える大きな役割を担う事業所として、各事業所をつなぐ重要な拠点となり、科学的介護を含む確実な情報連携によりチーム力を高める。

データ分析力を徹底し、根拠に基づくケアを実践することで、事業所としての成長と質の高い在宅支援をめざす。

【収益目標】

1．稼働率９５％以上

2．３日以上のキャンセルが発生した際には、当日中に総務と連携し、Instagram で情報を発信する。ケアマネージャーへの周知を徹底し、キャンセル情報を確実に共有する仕組みを構築し、稼働率に繋げる。

3．同様是正はゼロを目指す。事故発生時は再発防止策を徹底し、協力ユニットまで確実に周知・共有する仕組みを構築し、運用する。

【科学的介護目標】

1．　ロング入所者全員に対し、アセスメント・計画・実践・評価のサイクルを確実に行い、科学的介護による改善を図る。取り組み内容とデータ分析を行い評価し、入居時にはご家族様および特養へ確実に情報共有する。

短期入所生活介護事業所　のぞみの杜

※休止中

グループホーム　のぞみの杜

運営推進会議では、科学的介護の成果発表が定着し、グループホームとしての取り組みも確かな歩みを続けている。

今年度は、入居者様とご家族様が共に過ごす時間を増やし、日々のケアを丁寧に発信することで、ご家族とのつながりをより深めていく。さらに、地域との関わりを広げることで、住み慣れた地域での暮らしをこれからも支えていける事業所となる。

【収益目標】

１．稼働率　９８％

２．住み替えが決まっている際には、次の入居者様を決定し、退去から２週間以内で入居していただく。

３．ヒヤリハットの共有の徹底し、ICT の活用を行いながら事故の予知予測を行い A ランク事故を未然に防ぐ。前年度３件だった事故を、今年度は１件以内に抑える。

【科学的介護目標】

１．４つの基本ケア（水分・栄養・排泄・活動）を実践し、入居者９名全員の　BPSD 軽減、消失を目指す。

２．２か月に１度の運営推進会議内で科学的介護の成果や取り組みを発表し、地域に発信する。

３．年２回家族と過ごすイベントを行い、科学的介護での成果や取り組みを発信する。

通所介護事業所　のぞみの杜　ふれ愛

新しいテクノロジーを取り入れることで、スタッフ一人ひとりがより専門性を発揮できる時間を生み出す。その時間を科学的介護の学びや在宅介護への理解に充て、利用者・家族に寄り添う力を高めていく。学び続ける姿勢と質の高いケアを積み重ね、地域から信頼され、選ばれる事業所へと成長していく。

【収益目標】

１．稼働率８５％以上

２．新規獲得者数、５５名以上

３．新しいテクノロジーの導入。（年間１つ以上）

【科学的介護目標】

1.年間６名の科学的介護でお元気になっていただく対象者を設定し、成果をまとめ、ご家族、専門職が参加する担当者会議やその方にあった方法で発信を行い事業所のアピールを行う。

2.在宅生活を支えるご家族の困りごとや知りたいことを把握するため、上半期にアンケートを実施。下半期はアンケート結果をもとに家族会のテーマを設定し、必要な情報提供や意見交換の場として家族会を開催する。（年間：アンケート１回、家族会１回）

元気の湧　のぞみの杜

元気の湧にいくことが「楽しみ」また行きたいと思っていただける事業所を目指す。利用者様とスタッフのコミュニケーションをより充実させ、お一人お一人に今、できることを届けていく。

「楽しい」そう感じていただけるような企画や、プログラムで飽きのない常に進化する事業所となる。

【収益目標】

１．新規利用者数　年間５０人以上。

２．稼働率８０％以上

３．１か月に１回地域解放日とする。

【科学的介護目標】

１．４か月に１度バス企画を実施し、利用者の交流と楽しみを目的とする。

２．楽しみながら身体を動かす、心をわくわくさせる新プログラム２つ追加。

３．毎月の事業所会議にて科学的介護について１５分研修時間を設ける。

居宅介護支援事業所　のぞみの杜

お互いと他事業所の良さを積極的に発信し、安心して相談できる窓口を守りながら、科学的介護に基づくケアマネジメントを内外へ広く届けていく。新しい目標をもって成長する事業所となる。

【収益目標】

１．相談件数１００件以上

２．新規６０件以上

３．職員１名を採用し、確実な教育を目指す。

４．他ＣＭのグッドポイントを積極的に発信し、お互いの強みを認め学び合う。毎週１回のミーティング内で共有。

【科学的介護目標】

１．各職員は年間１名の対象者を選定し、科学的介護に基づくケアマネジメントを実践する。取り組みの過程と成果を年度内に事業所内または事業所外で発表し、事業所内外での発信とケアの質向上につなげる。

生活支援ハウス　のぞみの杜

情報共有を継続し、体調管理、体調不良の早期発見を行い生活のサポートしていく。科学的介護を学ぶ機会を設ける。

【収益目標】

1.長与町役場と連携し、スムーズな受け入れをしていくため月末日までに待機者の確認を行う。

2.年間平均入居者数１１．５以上

【科学的介護目標】

1．　科学的介護に関するポスターを掲示。（２か月に１回内容の変更を行う）

2．ケアマイスターによる科学的介護の研修を入居者に向け行う。（年２回）

3．オープンスペースに自由に飲水ができる麦茶等の設置を行い脱水予防をする。

スマイル・キッチン

私たちが美味しさを追求するために、業務効率を上げるために外部へ見学に行き学びを深める。常に進化していくキッチンであり続けるために新しいことへのチャレンジができる事業所となる。また、継続して科学的介護のバックアップができる。

【収益目標】

1.年間２回、外部への見学研修に出向き、現状から更なる改善、工夫のヒントを見つけ実践する。

2．選択食にチャレンジ！（メイン料理を選択できる日を年に２回実施）

【科学的介護目標】

1．特別養護老人ホーム水分ケア水分摂取平均１５００㎖達成のためのバックアップを行う。
（令和７年度平均水分摂取１４４５㎖⇒５５㎖UP を目指す）

2．常食化に関する学びを深めるため、毎月の事業所会議で 10 分間の学習時間を設ける。

もりのほいくえん

子ども一人ひとりの気持ちに寄り添い、ご家族も安心できる尊厳ある保育を大切にし、継続していく。リスクマネジメントを徹底し、日々の安全を守りながら、事故を未然に防ぐ仕組みを構築する。職員それぞれが専門性を発揮し、新しい遊びや学びの企画に挑戦し続けることで、柔軟に進化できるほいくえんを目指す。

【収益目標】

１．年間園児在籍数平均１８名

２．これまで発生した事故を振り返り、事故を未然に防ぐ。（事故前年発生より１０件減）

３．保育園見学会（年２回）

【科学的介護目標】

１．施設ご利用者、ご入居者を巻き込んだ遊びの立案・実施（年２回以上）

２．既存のイベントに加え、あたらしい企画を２つ追加する。

総　務　部

のぞみ会の窓口としてこれまで通り信頼される丁寧な対応を継続する。
AI 活用とアウトソーシングによる生産性向上を推進し、柔軟で働きやすい次世代型の総務部の構築を目指す。

【収益目標】

１．AI の活用が出来るようシステムを構築し、１年以内に職員が使用率６０％をめざす。
（職員約１００名が使用）

２．一部の業務をアウトソーシングし、連携を強化することにより生産性の向上を図り残業０を目指す。

３．離職ゼロ、正職採用１名。

【科学的介護目標】

１．就職面談会や就職フェアなど抜粋し、有効的な参加をおこない科学的介護についての取り組みを発信する。また、のぞみ会独自の施設見学会を設ける。（３か月に１回）

【hospitality 7つのS】

Smile ・・・・・ 笑顔（第一印象を大切に）

Study ・・・・・ 自己啓発、知識の習得、学習、努力の継続

Smart ・・・・・ 機敏な立ち居振る舞い、聡明で美しく

Sincerity ・・・・ 誠実、親切、思いやり

Speedy ・・・・・ 敏速、機転を利かせた配慮

Specialty ・・・・ 高い専門性、責任感

Security ・・・・・ 安全保障、情報保護、安心

『 のぞみ会　人間力 』

挨拶を基本とし、
常にチャレンジすることを忘れず、
個々人のスキルアップとチームでのシナジー効果を
最大限に発揮するために、
互いに励まし合い、共に認め合い、かかわりとふれあいを
大切にする事業体。

自分自身の成長のために、
そして、すべては、一人ひとりの人間性の向上を掲げて
感謝しあえる組織をめざす。